

校長室から 9 (season 2) 「学芸音楽祭」

～混声四部合唱の素晴らしいハーモニーの競演～

令和5年2月2日「第50回学芸音楽祭」が開催されました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、一昨年度は中止、昨年度は学校を会場としての実施を余儀なくされてきました。今年度は、規模を縮小した形ではありますが、光陵高校の学芸音楽祭の「聖地」である県立音楽堂に戻ってこれたこと、心から嬉しく思っています。

本格的な深い内容を含む「混声四部合唱」にこだわりを持つ、光陵高校の学芸音楽祭。混声四部合唱にはハーモニーの安定やより充実した響きなどがあり、新しい世界の発見と感動が得られるものです。

光陵高校での思い出は、この学芸音楽祭が一番であったと多くの卒業生が話しています。他の行事と異なり、クラス対抗であり、選曲や練習などで苦労はあるものの、その過程での心の交流が、クラスの団結を強くして、素晴らしいハーモニーを作り上げることができたという感動が心に残るからなのでしょう。



当日は、12月初めから2か月に渡った練習の成果をどのクラスも存分に披露していました。

その中で今年度の銅賞は22HR。自由曲は「群青」。銀賞は15HR、自由曲は「虹」。金賞は28HR。自由曲は「星空」。

この金賞を受賞した自由曲「星空」は、28HRの深澤譲さんが作詞作曲した作品です。伴奏者としても素晴らしいパフォーマンスを披露し、才能あふれる彼の今後の活躍が楽しみです。

1年、2年の全16クラスの合唱。いずれのクラスも代表者やパートリーダーを中心に、一人一人の今までの努力を形にすることができ、互いに仲間を信じて想いを一つにして歌い終えた笑顔が印象的でした。

来年こそは、新型コロナウイルスの影響から逃れ、従前の形で学芸音楽祭が開催されることを願っています。

令和5年2月19日